（ガイド事業からのレポート）

マイ　アトラクティブ　ワーク

―― 森のハイクが生み出すもの ――

米沢森林管理センター　　山口昭雄

はじめに

当センターでは，旧営林署であったＳ60年から今日までの11年間にわたり，一般市民を対象とした「森林浴」，いわゆる森林ガイド事業を実施してきました。

これは，その数年前Ｓ57年当時の林野庁長官，秋山氏が「森林浴」という言葉を初めて用い「今後は，森林空間を利用した，さまざまなレクリエーション等に対する国民的な要求が益々増大する，国有林もこれに応えなければならない」旨の発言をされたことを切掛けに始めたものです。

以降今日まで，森林浴を主としながら，親子森林教室・森林教室等のイベントを継続的に実施し，試行錯誤を繰り返しながらも今日の姿が出来上りました。

それは，一般公募の「森林浴ツアー」とあわせ「フォレストメンバー」という名で会員を募集しガイド事業を実施しています。これは，営林局森林倶楽部の営林署版ともいうべきものですが，これらの企画は，すっかり市民に定着した感があり，毎年このイベントを，市民が首を長くして待っていると言っても過言ではありません。

このイベントも，回を重ねるごとに，受入れ側である私たちの対応もマンネリ化の傾向にあるのではないか，あるいは，当時と比較して職員数が大きく減っていること等から，より効率的に，また更に充実したものにしたいと考え，これまでの参加者を対象にアンケート調査を行なってみました。なお回収率は，約90％でありました。

今回の調査の一部は，数年前にも一度実施しており，その結果は，今回のものとほぼ同じでありました。このレポートは，それも加味しまとめました。

また，これに類する調査研究とその報告は，過去に多くありますが，その内容や結果においても，様々な条件の違いを考慮すれば大層同じでありました。

そうしたことから，特に今回は，このガイド事業をとおして，その目的・趣旨等，国有林のもつ森林・林業そして環境問題等がどれだけ啓蒙できたか，また，私たちのインストラクターとしてのあるべき姿を考察し，更に，市民から慕われる国有林を目指した実践の結果として報告します。

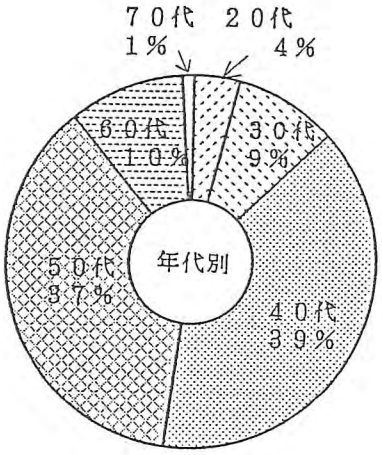
1．アンケート調査の集計とその分析

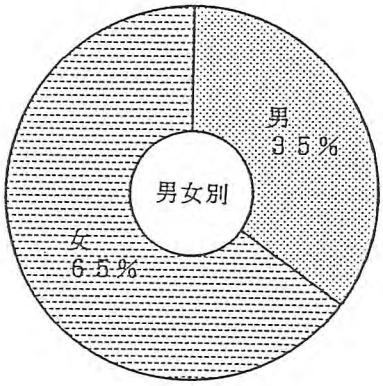
Ｑ１．参加者の年代別及び男女別割合

参加者数はH2~7年，男女別はH6~7年の集計である

	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０代	計
参加者数	１１	２８	１２５	１１３	３２	２	３１１人
男	１	３	１３	１１	１	１	３０
女	２	５	２２	２１	５	１	５６

※ 参加者数はH2~7年，男女別はH6~7年の集計のため男女の計と参加者数の計は合致しない。

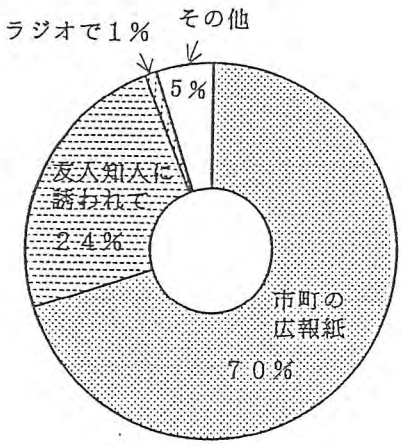




イベント参加者を，年代別に見てみると，４０代以降の中高年者と言われる年代でその大半を占める。これは，男女別に見ても同じ傾向である。また，男女別の参加割合は，約１対２で女性が多い。中高年パワーが日本の山々を駆け巡っているという。

この中高年者は，戦後の日本の復興と経済の成長を支え，苦労が多かった世代であるが，子供が成人し，ホットしたところで，さて今後の人生をいかにエンジョイするか，ということだろうか。

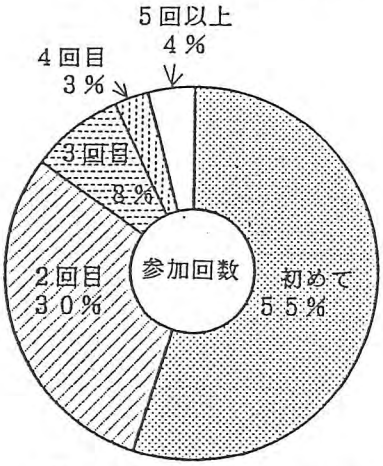
Ｑ２．何でイベントを知ったか

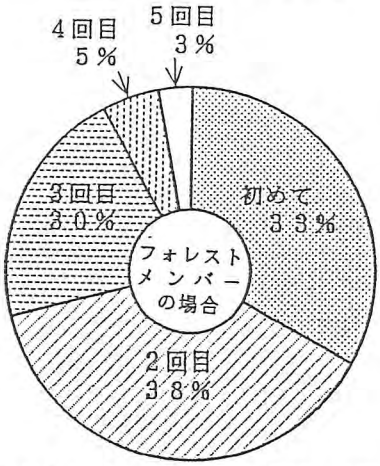


自治体の広報紙が７割となるのは，募集の方法が広報のみであるから当然であるが，今年はＦＭ山形が各地の話題として取り上げたことから，定員締切り後の申込が殺到した。

特徴的なことは，各自治体で行われる山開きの中で，「営林署の行事は色々な説明があって楽しい，また安心して山に行ける」等，口込みで評判になり，その結果が「友人知人に誘われて」の２５％となっているものと思う。これは，これまで実施したものに胸を張ることができると言えよう。その他は，局森林倶楽部会員等である。

Ｑ３．当センターのイベントに何回参加したことがあるか。





この表からは，一度参加して「また参加したい」という気になっていると言える。

初心者を対象とした森林浴参加者を含めたものと，フォレストメンバーのみの場合とでは，その傾向が更に顕著である。それは，前記Ｑ２でも少し触れたが，いま国有林で実施しているガイド事業が，その対応や内容について，自信を持って良いものであると思う。

Ｑ４．なぜ「山」に興味を持ちましたか（参加の動機について）

「山」に向かう人の目的は，人それぞれであり，数え上げればきりがない。

中高年者の参加が多いということから，健康のためが多いと思ったら意外と少なく，自然に触れられるが１位であった。

２位は，山が好きだからであるが，これは１位の自然に触れられると重なるものが多く，また意味が広い。青春の想い出は，学生の頃に登ったことが懐かしく，人生に余裕が出た今，また「山へ」というものが多い。

上位ベストセブン

	回　答　内容	人数
①	自然に触れられる	２９
②	山が好きだから	１５
③	リフレッシュできる	７
④	健康のため	７
⑤	青春の想い出	６
⑥	登ったときの達成感	４
⑦	その他	

本設問は，記述式であったため，その回答は幅広く，また重複していたが，大くくりに上位６項目にまとめた。その他には①にまとめれるものがかなり多くあった。

Ｑ５．今後も当センターのイベントに参加したいと思いますか

この問いには，実に回答者の90％がまた参加すると答えた。参加しないはゼロ，わからないが10％あったが，これは全て日程や休暇が取れないがその理由で，私たちが考慮しなければならないものはない。なおこの設問はＱ３で十分であり設問が不適切であった。

Ｑ６．森林浴等の募集の方法について（意見）

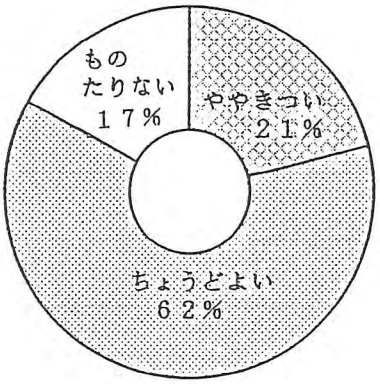
ここでは，「希望者が多いときは前年漏れた人を」「抽選にしてほしい」が多かった。これは，これまで全て自治体の広報紙をとおして募集してきたが，その都度定員をオーバーし断らざるをえない状況であったから当然の要求であろう。

この他に，「初心者と中上級者の区別を」等があったが今後の検討課題としたい。

ちなみに，平成６年度は定員の約３倍，平成７年度は約２倍ほどの申込があった。

技術的なものとして，テレビ・新聞・案内状を等があったが，受入れ能力の問題があり現行の方法を変えることは難しい。

Ｑ７．平成７年度の企画について（時間・コース等の行程）



この設問は，イベントの行程・時間の配分についてであるが，初心者から上級者まで幅広い参加者を組織していることを考慮すれば，現状のイベント内容が適切なものであると判断してよいと言える。

設問には左記のほかに「かなりきつい」も設けたが、それに答えた人はいない。

蛇足であるが、「ややきつい」が比較的若い年代層に多く，「ものたりない」が高い年代層に多い傾向にあることはどう見るべきか悩むところである。

また，参加回数が増えるにしたがい，更に高度な山行きや，山小屋泊まりを伴うものを要求するようになる。それが「ものたりない」層に多いが，これに応えることは，現状では問題が多過ぎる。

Ｑ８．平成７年度の企画で良かったこと，悪かったことは

	回　答　内　容	人数
①	職員の対応・説明がよくおもしろい	２２
②	気持ちがよく大変楽しかった	5
③	安全・安心できる，家族も安心	5
④	全てよい	5
⑤	その他	３２

この項は，ずいぶん褒められてしまった。森林浴が参加者の心に残したものがあるとすれば，素直に喜びあわせて，自信を持ってよいと思う。

ここでも，記述回答であったため，幅広い回答が寄せられたので，企画に関わるものを下欄にまとめた。

※ 企画内容で良かったこと

	回　答　内　容	人数
①	祝瓶山と石転沢に行けたこと	１３
②	景色・高山植物に感激	8
③	現地までの交通手段の手配	5
④	山や土地の史実を知った	4
⑤	最後の反省会が良かった	4
⑥	班編成・人数が適切だ	3

※ 悪かったこと

	回　答　内　容	人数
①	天候に恵まれなかった	１８
②	ﾌｫﾚｽﾄﾒﾝﾊﾞｰが定員制である	１３
③	写真がもっと欲しい	１１
④	交流・懇親会がもっとほしい	8
⑤	休憩時間が少ない	4
⑥	温泉浴もしたい	4

良かったこと

①は，ある程度の知識と経験を持つ者でないと難しい個所であったから，参加者の感激も大きかったものと思う。当署の職員も大半が初めての箇所であった。

しかし，このような難度の高いフィールドでは，それなりのリスクも伴うことから，今後も実施する場合は，慎重な計画と，万全の準備が必要である。

事故について付記すれば，過去11年間において実施したガイド事業において，大きな事故（搬送や，病院での治療を必要としたもの）はなかった。

軽い捻挫２件，擦り傷１件である。（いずれの場合も，不注意によるスリップが原因であり，そのまま行程を踏破し自力下山した）

②は，①と重複する部分が多い。また，Ｑ４の①と併せて考えると，本設問の①②が３分の１を占めたことは，このアンケートの信憑性が高いものと判断して良いと考える。

日常の雑踏から解放されたこの種イベントは，今後市民の要望がますます大きくなる要素を持っていると思う。

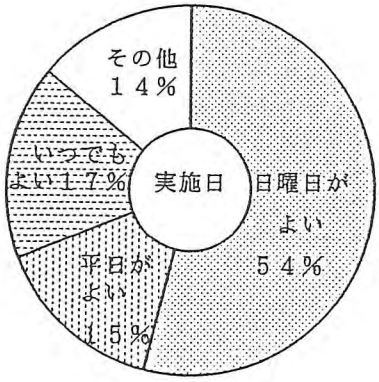
③～⑥について言えば，今後も入念な準備はもちろんであるが，これまで実施してきたガイド事業に自信を持って良いということであり，更に研鑽を深め，充実したものにしていかなければならない。

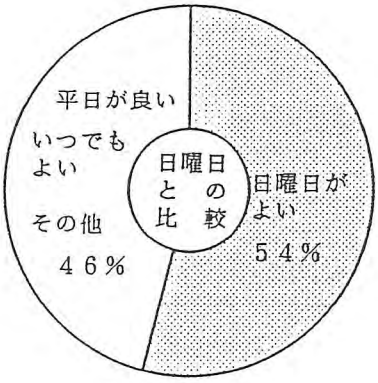
悪かったこと

①は，やむを得ないことであり，今後に期待するのみであるが，雨に煙る湿原の可憐な花々，幻想的な山々の稜線とアオモリトドマツの織りなす風景に，「雨の山もまたそれなりに味わいがある」という参加者の声にすくわれた。

②～⑥までは，今後の事業を計画するにあたり考慮して行かなければならないことである。また，これに関わる予算・要員や他の業務との関連等とあわせ，会費等の問題もあるが，可能なかぎり要望に応える努力をしたい。

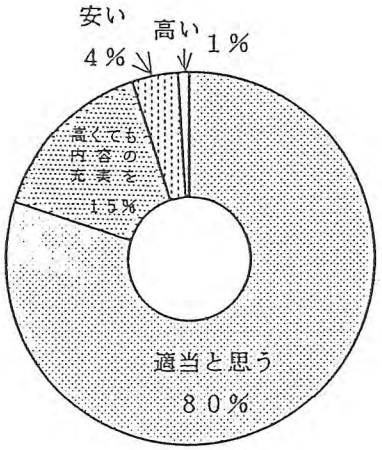
Ｑ９．イベントの実施日について





イベントの実施日については，「日曜日が良い・日曜でないとダメ」が５４％であり，「平日が良い」１５％，「いつでも良い」１７％，「その他」１４％であった。
「その他」は，全て土曜日と答えているが，上記結果からすれば，今後のイベント実施日については，参加者の階層とその目的及び，実施回数にもよるが，過去の実施箇所について踏襲するとすれば，来年度は，土・日曜日と平日を組み合わせて計画することが，休日勤務の問題が半減できること等，よりベターでないかと思う。

Ｑ１０．会費について（加入費も含め）



これを，どのように見るかは色々あると思うが，今年まで実施したイベントの会費について言えば，総じて適当であると言っても良いであろう。

裏を返せば，安くて適当であるということであるから，もうすこし遠慮しない会費として，内容の充実をはかった方がよいと思う。

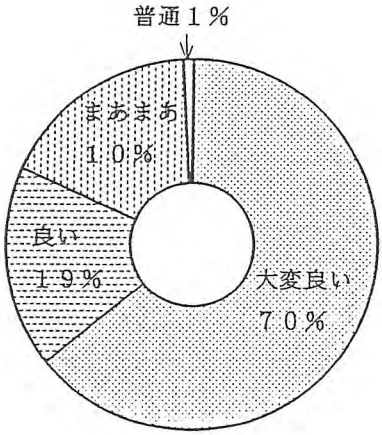
高いと答えたものが１人いる。これは森林浴参加者で，地元山岳会会員である。Ｑ６でものたりないいと答えているが，おそらくハイレベルなものを期待したものと思われるので考慮の必要はない。

また，「高くても内容の充実を」が１５％を占めたが，その求めるものは，「下山後に温泉を」「月山・尾瀬等の有名な山にも行きたい」「宿泊を伴ってもいい山に行ってみたい」「交流・懇親会等をもっと」等である。

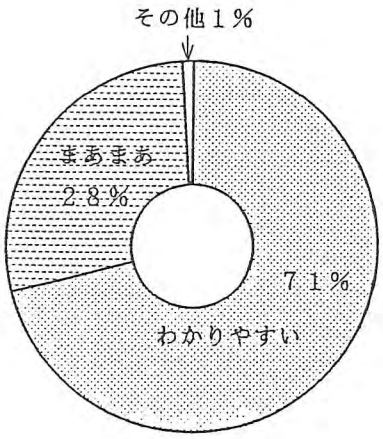
交流会等については，これまでも最終回に実施し好評を得ているが，温泉を組み入れることは，過去に数回実施したことがあり，今後の企画において検討してみたい。

それ以外に応えることは，ガイド事業の趣旨や国有林野事業としての業務の範疇から逸脱してしまうのではないだろうか。

Ｑ１１．センター職員の対応について



Ｑ１２．職員の案内・説明は



（Ｑ１１及び１２は内容が重複し，その回答も共通していたので以下にまとめた）
この２つの項では，「Ｑ１１（大変良い）と，Ｑ１２（わかりやすい）」，「Ｑ１１（良い・まあまあ）と，Ｑ１２（まあまあ）」そして，「Ｑ１１（ふつう）と，Ｑ１２（その他）」が見事に一致していることに気がつく。

前記の他に，Ｑ１１には，「わるい」「非常にわるい」「役人的である」及び，Ｑ１２には，「よくわからない」があったが該当はなかった。
この項に対するコメントは，自分で自分達を褒めることになってしまうのでやめるが，択一の他に，「それはなぜですか」のコメントを書いてもらったので，まとめてみた。
喜んで良いものには，「山のいわれや伝説の説明が良い」「草・花・樹木の説明が良い」「細いところまで気配りがある」「親切で感じが良く，楽しい」等である。
反対に，「もっと質問に答えれるように」「もう少し班員との交流を」「特定の人とだけの会話がある」「職員だけが固まっている」等の指摘もあり謙虚に受け止め，切磋琢磨しなければならない。
Ｑ１２で「その他」と回答した人のコメントに「職員によりけり」とあった。妙に胸中に残ったので，付記した。

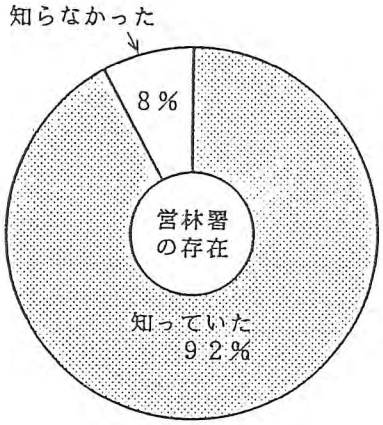
Ｑ１３．来年度以降の企画に望むもの（ご意見を下さい）

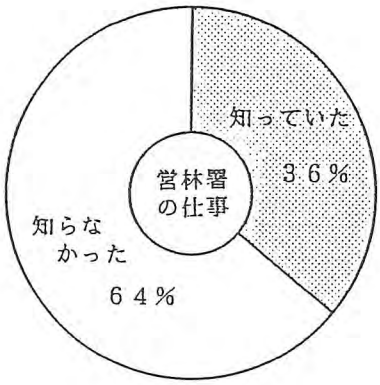
実に多くの意見・要望が寄せられたが，以下主なものにまとめ列挙してみた。

	意見要望等	回答数
①	一泊（山小屋もしくはテント）の山行きはできないか	１２人
②	写真がもっとほしい	１１
③	交流懇親会をもっとやるべき（皆で山菜を採って懇親会を）	１０
④	定員をもっと増やしてほしい，もしくは回数を増やして	9
⑤	初心者のための登山教室と山の企画を	7
⑥	石転沢をアンコール・高山植物のコースをもっと	6
⑦	下山後に温泉にも入りたい	4
⑧	森林保全（保護）及び山造り（植林・下刈・薪取り等）の教室を	4
⑨	管外はできないのか（月山・尾瀬・鳥海等）	3
⑩	初心者と中上級者の区分けを	3
⑪	同じ企画を日曜日と平日の２回実施できないか	3
⑫	朝早く立つ等，もっと時間の余裕がほしい	3
⑬	コース・時間の説明をもっと詳しく，またハードなものは最後に	2
⑭	その他・フォレストベストがほしい（有料で分けてくれ）等	3

以上のとおりであるが，今後の企画の参考にし，取り入れられるものは取り入れ，計画してみたいと思う。なお，⑤と⑧はガイド事業の趣旨からしても是非やってみるべきと考えており，今後検討してみたい。

Ｑ１４．森林浴等の行事に参加する前は，営林署の存在やその仕事について知っていましたか





この項では，非常に興味深いコメントがあった。それは，「営林署は木を伐ってしまうムダな役所だと思っていましたが，森林浴に参加して考えを新たにしました」「これから将来，一番大切な役所だと思いました」というものであった。

結論を先に述べてしまうことになるが，この事業の目的・趣旨が十分かどうかは別にしても，おおいに成果があったものと思う。そして，今後も更に充実させなければならないと思う。

さて，この項の分析であるが，「営林署の存在について」参加者の実に92%が「知っていた」となっているが，その内容は中高年者が圧倒的に多く，「知らなかった」は若い年代がそのほとんどを占める。

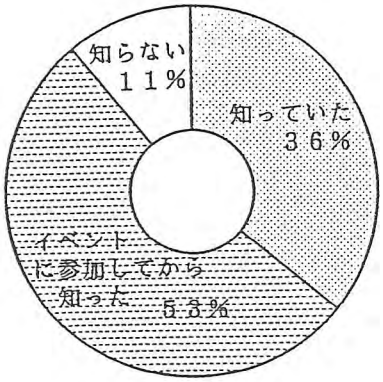
日本経済の高度成長期以降，または，薪炭材需給の関わりで燃料革命以降に成人した者と，それ以前の年代層では，当然の結果と言えるのではないかと思う。

したがって，４０歳以下の年代層においては，「知らない」が相当多くなるものと想定される。

ここで重要なのは，営林署の仕事を「知っていたか・知らなかったか」に現れた数字であり，その結果は，この行事に参加してから「知った」という層が，６４％と３分の２を占めていることである。加えてアンケートの中には「営林署はＰＲが不足していると思う」という回答が随所にあった。

この項の冒頭にも述べたが，今，国有林のおかれている状況もさることながら林業や，環境問題を考えるとき，現場である川上からの発信事業としての，この種事業がもっとウエィトを持たなければならない，と言うのは拙速だろうか。

Ｑ１５．「吾妻山周辺・飯豊山周辺森林生態系保護地域」ということを知っていますか。



「知っていた」が，３６％となっていることは，自然保護・環境問題が大きな世論となっていること，設定時にテレビ・新聞等で大きく報道された経過からすれば，少ないとみるべきだろうか。

また，イベント時やそのとき配布したパンフにも記載しているのだが，それでもこのアンケートを見るまで知らないという人が１１％もいることは，やむを得ないだけですまない気持ちになる。

しかし，この事業に参加するまで「知らなかった」層６４％の約８割が，これに参加してから知った，と言うことをよろこぶべきである。

Ｑ１４と同じく，この事業をとおして一般市民に対し，ある意味で狭い自然保護の考えから，森林・林業の意義，そして，環境問題までおおいに啓蒙できたものと確信している。

繰り返すことになるが，技術的なことは勿論高めなければならないが，可能な限りこの事業の継続と，より効率的な実施を考えていかなければならない。

この設問に，「このような施策をどのように思いますか」を付記した。Ｑ１６に重複し設問の方法が不適切であったので，両方併せて集計したものが下記表である。

	回答内容	回答
①	大変良い施策であり，大賛成だ	２４
②	必要な仕事であり，私たちの義務でもあるから協力する	２２
③	あまり山を便利にするな，一般車両の林道通行規制を	１５
④	大切な仕事だ	１４
⑤	素晴らしい仕事だ，大変と思うがこれからもガンバレ	9
⑥	もっとアピールすべきだ，それが足りない	9
⑦	イベントをとおして，自然や行政を考えた	8
⑧	営林署の充実を，そして現場の具体的施策を早急に	6
⑨	このことに対する研修会などがほしい	3
⑩	超保護主義は困る	2
⑪	その他	１０

その他では，「スーパー林道ができなくて残念」反対に③と併せ「スーパー林道は疑問だ」及び「山があるからいきて生ける，だから大切に」等であった。

上記のうち，①②④⑤は，ほぼ大括りにまとめてもよいものと思う。

Ｑ１６．環境問題・自然保護・森林・林業等について，どのようにお考えですか。

Ｑ１５にまとめた

Ｑ１７．なんでも結構ですお手紙下さい（自由意見欄）

ここでも，前記各項と重複するものが多く，それに該当がなかったものを列挙してみた。この項のコメントは，これまで述べたものとおなじである。

①	営林署は興味深い仕事ですね
②	木を伐るムダな役所と思っていたが非常に関心を持ちました
③	新たな出会いで仲間ができました
④	不安なまま参加したが，やみつきになってしまいました
⑤	また絶対参加するから定員オーバーと言わないで
⑥	こんな素晴らしいストレス解消法はない

アンケートのまとめ

設問 1,2,3,5,6,7,8,9,10,13, については，技術的なものが主であり，以前にも実施したことのある項目である。また，他署などでも多く実施され，その報告も多くあるが，今回の集約結果は，それらと大差のないものであった。

その結果は，「森林浴」を主としたガイド事業の需要は，中高年者を牽引力として大きな可能性をもっており，同時に，現在国有林で実施されているガイド事業の対応は，市民から好感を持って受け入れられていることに自信を持つことができる。

あわせて，私たちの努力しだいでは，更に大きなものにすることが出来ると言えよう。

上記以外の設問 4,10,11,12,14,15,16, は，ガイド事業を実施するにあたって，私たちのインストラクターとしてのありかたや，この事業をとおして，国有林の持つ森林・林業や自然保護といった目的や意義がどれだけ啓蒙できたのか，について考察してみた。

設問 4については，前記でも述べたが，「自然に触れられる」と言う。

実に様々で華やかなレジャー産業が，多くの人々を魅了しているが，対極的この種イベントは，その愛好者が２千万人とも言われ，根強い人気をもっており，大きくなる可能性をもっていることの実証であろう。

さてそのとき，実に豊かなフィールドをもつ国有林は，これを更に有効に生かさなければならないと思うが，そのことについて，設問 7,10,11,12,では，受け入れ側である私たちの対応のあり方を考察してみた。

その結果は，前述のとおり，市民から非常に好感を持って受け入れられている。多少褒められすぎとしても，これまで実施してきたものに自信を持って良いものと思う。　反面，森林浴などにおける，私たちの案内や説明等に対し，［もっと質問に答えれるように」あるいは，「職員によりけり」という率直な指摘もあり，更に研鑽を深めなければならない。

日常生活の中に，アウトドアライフの占める割合が，増大していることは，衆目の一致するところだが，大きな受入れ要素を持つ国有林として，その機会を提供することは当然であると同時に，国土の保全を始めとした様々な公益的機能の発揮と，森林・林業の持つ意義をもっと広くＰＲしなければならないと思う。

回答の中には，その指摘が随所に見られた。

この事業は，そうした意味において大きなウエィトを持っているものと思う。

設問 14,15,16,は，そのことを如実に表していると言える。

設問 14,は，「営林署の存在について」であったが，中高年者層は大半が「知っていた」と答えており，若年者層では，反対にその大半が「知らなかった」と答えている。

更に，「営林署の仕事について知っていますか」では，「知らなかった」が３分の２を占め，裏を返せば，このイベントに参加してから「知った」ことになる。

それは，それぞれの生きてきた時代背景がもたらしたものと思うが，社会の半数近くを構成する若年層に対し，何らかの手立てを必要とすることを示唆するものであると思う。

また，設問 15,では，近年設定された「吾妻山及び飯豊山周辺森林生態系保護地域」について，「知っていたか否か」を問うたが，参加者の半数以上が，「このイベントに参加して知った」と答えた。

それらは，今私たちが実施しているガイド事業の目的・趣旨が，十分かどうかはともかく，おおいに成果があったものであり，今国有林のおかれている状況もさることながら，林業や環境問題を考えるとき，この種事業がもっとウエィトを持たなければならないと考える。　同時に，それを担う私たち自身が，更に切磋琢磨し，市民の要求に十分応えれるようにしなければならない。

設問 15,で，「このような施策をどう思うか」，設問 16,で「環境問題・自然保護・森林・林業についてどのように考えているか」について記してもらったが，その回答が重複したため一つにまとめた。

その結果は，「（１．アンケート調査の集計とその分析），Ｑ１５」の表のとおりであるが，回答の中に，強く胸中に残ったコメントがあったので再度付記したい。

それは，「営林署は木を伐ってしまう無駄な役所だと思っていましたが，森林浴に参加して考えを新たにしました」「これから将来一番大切な役所だと思いました」「営林署は興味深い仕事ですね」というものであった。

慌ただしくアンケートの集約をした。「できる限り市民の声を」と思い，記述や自由な意見を求めたが，その回答は、批判や苦言も少しはあっていいのではと思っていたが，嬉しいものばかりであった。

本報告を作成するにあたり，指導と協力を頂いた多くの皆さんに感謝し，結論は，前記設問 14,15，のコメントに記したものであり，あわせて「与えられた条件の中で，私たち自身が更に研鑽を深めること」であった。